

療育活動における強み活用の参考例 架空の子ども：たける君（小学校3年生）

- 【強み（ストレングス）】
- ・数字や記号を覚えるのが得意（記憶力）
 - ・パズルやロジックゲームが好き（論理的思考）
 - ・図形や形に強い興味（観察力）
 - ・落ち着いた環境で集中できる（粘り強さ）

療育活動例①：「数パズル探偵団」

【目的】記憶力・論理的思考を活かし、楽しみながら問題解決力を育む

【活動内容】

- ・数字をヒントにしたミッション型ゲーム（例：「宝箱のカギは○+○=10」など）
- ・図形パズルやナンプレ形式の問題に挑戦
- ・子ども自身が「問題作成者」になって、他の子に出題もできる

【ねらい】

- ・楽しみながら成功体験を積む
- ・他児との協力や発表を通して社会性も育成

療育活動例②：「ぼくのロジックマップ」

【目的】得意な図形や記号を使って自分だけの地図やゲーム盤を作成

【活動内容】

- ・用意された図形パーツやシールを組み合わせてマップ作り
- ・「この道を進むと何がある？」と論理展開しながらストーリーを作る
- ・完成した作品を発表・共有する

【ねらい】

- ・創造力と論理力を同時に育む
- ・表現する楽しさを感じることで、自己肯定感を高める

療育活動例③：「集中クラフトタイム」

【目的】集中力と粘り強さを活かして、細かい作業に挑戦

【活動内容】

- ・数字を並べるビーズアート（例：「1,2,3…」の数字列で模様を作る）
- ・パターンを繰り返す折り紙・工作
- ・作品を飾ったり、プレゼントとして他児に贈る体験

【ねらい】

- ・自分の得意を「形」にする達成感
- ・他者との交流や感謝の気持ちを育む